

1 かながわの学びの充実・改善のための重点事項

1 子どもたちの学びに対する意欲の向上 (p.15～)

- 「各教科の勉強が好き」「先生が自分のよいところを認めてくれている」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している児童・生徒ほど、各教科の調査問題の平均正答率がそれぞれ高い傾向が見られます。

POINT!!

- 児童・生徒のよい点や努力を積極的に認めるとともに、多様な意見を認め合えるような授業づくりや学級づくりに取り組んでいくことが重要です。

2 自分の考えを文章等で表現する力の向上 (p.19～)

- 自分の考えを文章等で書く問題の正答率は、他の問題と比較して低い傾向にあり、特に中学校では無解答率が高い傾向にあります。
また、解答類型※ごとに見ると、理由や根拠を基に、自分の考えを分かりやすく書き表すことに「つまずき（課題）」がある様子が見られます。

POINT!!

- 自分の考えを文章等で表現するには、書く材料を集めたり、考えを形成したり、構成を考えたりする必要があります。児童・生徒がその過程のどこでつまずいているのかを把握し、授業を行うことが重要です。

※解答類型…各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。他校種、他教科でも同様に、解答類型の反応率を見ることで、どこでつまずいているのかを把握する一助とすることができる。

3 授業改善の推進 (p.23～)

- 課題解決に向けて自分から考えたり、他者との話し合い等を通じて考えの深まりや新しい考え方への気付きを実感したりしている児童・生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。
- 授業等での ICT の活用頻度は年々高まっています。また、ICT 活用の効力感に関して肯定的に回答した児童・生徒ほど各教科の正答率が高い傾向が見られます。
- 主体的・対話的で深い学びに取り組んだ児童・生徒は、家庭の社会経済的背景 SES (Socio-Economic Status) が低い状況にあっても、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

POINT!!

- 各学校は、日々の教育活動の一層の充実を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に引き続き取り組んでいくことが重要です。

4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進 (p.29～)

- 教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら指導計画を作成している学校の割合が、徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。
- 地域や社会への貢献に関する質問に、肯定的に回答している児童・生徒の割合は、昨年度より高まっている一方、小学生に比べて中学生の割合が低い傾向が見られます。

POINT!!

- 各学校は、地域や家庭と連携しながら、児童・生徒が地域や社会に関わろうとする（社会参画）意識を育む指導計画や教育課程を編成・実施していくことが重要です。

2 今回、新たに資料へ盛り込んだ特徴的な分析結果

- 平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られます。(p. 33)
- こうしたことを踏まえて、各学校で印刷して保護者等にそのまま配布できるよう、次のとおり、リーフレット形式にまとめる工夫をしました。(p. 34~35)

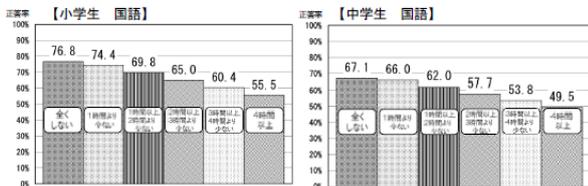
子どもたちのスマホの付き合い方について、話し合ってみましょう!!

令和5年度の子ども家庭庁の調査によると、10歳以上の小学生の7割以上、中学生の9割以上が、自分専用のスマホを所持しています。

また、スマホを含めた一日のインターネット利用の平均時間は、小中ともに3時間を超えており、その利用内容の多くが「趣味・娯楽」目的であると示されています。

また、神奈川県教育委員会では、4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果を基に、ゲームやスマホの利用時間と学力検査の平均正答率には、どのような関係があるのか分析をしました。その結果は、下のグラフのとおりです。

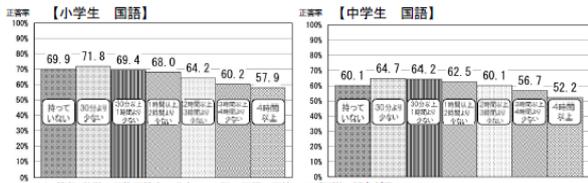
Q. 普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか(「児童・生徒質問調査」(設問5))と、小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計



○ 算数・数学の平均正答率の分布は、上記の国語の回答とほぼ同様の傾向が見られました。

「平日のテレビゲームで遊ぶ時間が長い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られる」

Q. 「普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間を除く)」(「児童・生徒質問調査」(設問6))と、小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計



○ 算数・数学の平均正答率の分布は、上記の国語の回答とほぼ同様の傾向が見られました。

「平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られる」

携帯電話やスマートフォンとうまく付き合い方していくために、家庭内でルールを作ったり、そのルールが現状に合っているかを定期的に見直したりすることが大切です。

ここに注目!!

神奈川県では、子どもたちがインターネット上のさまざまなトラブル等に巻き込まれないように、スマートフォンなどの正しい利用について「青少年のスマホ利用保護者啓発リーフレット」を作成しています。

【見守りポイント1】

スマホの特性や危険性を理解しましょう

情報の拡散による誹謗中傷や依存性に関するトラブルについて紹介しています。



【見守りポイント2】

フィルタリングを設定しましょう

違法・有害なサイトへのアクセスを制限するフィルタリングの設定の必要性について説明しています。



【見守りポイント3】

親子で一緒にルールを作りましょう

適切なスマホ利用に向けて、親子でルールを作るうえでのポイントを整理しています。

右表のように、ルールを書き込む枠もあります。

子どもと一緒にスマホ利用のルールを考えるとともに、子どもがスマホと上手につき合える力を身に付けられるようにサポートすることが大切です。



<参考> 「青少年のスマホ利用保護者啓発リーフレット」
(神奈川県青少年課(地域環境グループ))
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/25703/1750smsho.pdf>

